

読書のすすめ

「幼児のコトバ」

平井 昌夫著
日本文化科学社

「ことばの誕生」岩淵悦太郎他共著

日本放送出版協会

斉藤 幸彦

わたしたちは、当り前のこととしてコトバを使って生活しています。しかし話ができるということは大人なことであり、すばらしいことなのです。

外国語を習う苦勞を考えてみてください。さんざん苦勞をしても物に

ならない人がたくさんいます。ところが、子どもは生まれて一年も過ぎるとカタコトを話し始め、五歳で一国のコトバを覚えてしまいます。

コトバが使えるのは、人間だけではなく、コトバは生まれた時からもっているものではなくて、聞いてまねをすることで覚えていきます。だから、まねの仕方がまずかったり、まねる手本がいけなかったりすると、満足なことが育ちません。

「幼児のコトバ」は、著者の長年の研究と臨床経験から、子どものコトバの育て方について述べると共に、コトバの病気の扱い方についても、質問に答えるという形式で書かれた、やさしく、読みやすい母親むけのコトバの指導書・参考書といえます。

また、「ことばの誕生」は、子どもが生まれてから五歳ごろまでの間に、どのようにコトバを覚え、使うようになるか、十人の子どもの成長の姿を克明に記録し、その結果を学問的に専門家が分析・説明を加えています。

特に、年齢と共に発達するコトバと知恵つきや身体の成長を、医学・生理学・言語学・心理学の立場から、わかりやすく関連づけて述べてあります。コトバの発達のみならず、子どもの成長を知るうえにも、大へん参考になります。広く先生方や両親に読んでいただきたい本だと思えます。

(横浜市立東小学校)

聴覚言語治療教室)